

民生教育委員会行政視察報告書

1 視察期間

令和7年10月20日から令和7年10月22日まで 3日間

2 視察都市

- (1) 静岡県焼津市
- (2) 長野県佐久市
- (3) 神奈川県鎌倉市

3 参加者

松野正比呂委員長、平田直巳副委員長、永井新次委員、宮崎真理子委員、高塚静子委員、
秋山勝則委員、高梨俊弘委員、岡 實委員、鈴木喜文議長

同行 稲垣美千代福祉政策課長

随員 小笠原秀樹主任

4 視察事項

- (1) 福祉分野における重層的支援について（焼津市）
- (2) 学校教育について（佐久市）
- (3) 福祉分野における重層的支援について（鎌倉市）

5 考察

次のとおり

I 焼津市 人口：136,343人・面積：70.30km²（令和7年4月1日現在）

1 福祉分野における重層的支援について

(1) 概要

焼津市は、県のほぼ中央、駿河湾に面し、焼津漁港の水揚げ量及び水揚げ金額は全国有数である。カツオとマグロの漁獲量は全国首位であり、魚を使った練製品、冷凍食品、缶詰など、水産加工業も盛んである。

令和4年以前から高齢者・生活困窮者・障害者・子どもや子育て家庭など、既存の制度や分野をまたぐ事案があることから、重層的支援体制整備事業の取組を進めてきた。

(2) 考察

困りごとマルっとサポート事業(重層的支援体制整備事業)は、令和4年に県のアドバイザー事業を活用して支援を受け、市長・部長級の事業説明や関係課ヒヤリングを経て、令和5年6月よりプロジェクト化して開始している。

支援対象者は子どもから高齢者までで、庁内27課にまたがっている。各課で相談を受けた、「重層的支援が必要と思われる案件」は、困りごとマルっとサポートセンターに集約され、内容が精査されて、簡単なケースでの調整会議と、重層的支援を必要とする場合の重層的支援会議に分けられる。重層的支援会議は毎週行われ、月2・3件、昨年度は30名程度の対応であった。重層的支援後は「参加支援事業」「アウトリーチ等を通じた継続的支援」が実施され、その後はモニタリングやプランの見直しが行われている。

総合中核機関である「困りごとマルっとサポートセンター」は、複合化した課題の支援方針や重層的支援の中核機関であり、司令塔的役割を果たしている。その中においても、さらに的確に判断・調整できる職員が必要であると感じた。

職員のスキルアップについては、現在は県のアドバイザーが関わっていて学びながら進めているとの事であった。磐田市においても県のアドバイザーが入っており、同様に進んでいけると思われる。

また、複雑化・複合化する課題は、対応が長期化する傾向があり、総合支援機関の業務が回らなくなる懸念もあるが、焼津市では総合支援機関として、重層的支援を支援終了とする目安が定義づけされており、磐田市においても重要であると感じた。

磐田市においても、司令塔の役割を担う総合的組織等の支援体制の構築と、横断的な取組として、全方位型アセスメント採用による会議手法の構築が必要である。

II 佐久市 人口：97,676人・面積：723.51km²（令和7年4月1日現在）

1 学校教育について（不登校支援）

(1) 概要

佐久市は、県の中央東部、佐久盆地の中央に位置し、千曲川が流れる。古くは中山道と佐久甲州道の交差点で宿場町として栄えた。現在は上信越自動車道や中部横断自動車道、北陸新幹線が通る。冷たい流水で養殖される佐久鯉は特産品。

佐久市不登校等対策連絡協議会は、令和5年3月まではいじめと不登校対策を兼ねていたが、令和5年より不登校対策のみを協議する機関としてスタート。同年6月より「子どもSOS そうだんフォーム タッチ」を運用開始。チャレンジ教室(校内教育支援センター)は専用の教室を確保して、小学校は14校中5校、中学校は7校全てに設置している。校外の学び場や居場所についても、官民それぞれ特徴の違った体系で運営されている。

(2) 考察

佐久市では不登校の現状を直視し、子どもの多様な居場所・学びの場、不登校児童生徒を増やさない取組を検討し、支援に繋げている。「佐久市不登校等対策連絡協議会」の委員は、元学校長、フリースクール代表、小・中学校長、医師、保育園長、保健師、不登校保護者会代表、主任児童員の10名で構成されており、合同会議や「いじめ・不登校担当者」などで連携強化、情報共有を進めており、新たに民生委員も加わる予定である。

ここでは、市内の小中学校の不登校等の実態と取組、課題について認識の共有をし、さらなる支援の充実に向けて協議・検討している。保健師が学校で「SOSを出していいんだよ」等の講話を実施し、子どもや保護者が誰に相談できるのかを分かりやすくする工夫が見られる。また、児童生徒が所有するタブレット端末に相談窓口アプリを設けることにより、自ら悩みを発信する力を育むことに繋がり、支援者へ繋がられている。

こういった取組から、令和5年度のデータからは効果を上げ始めている可能性が示唆されている。佐久市は現在、学校に行きづらい子どもたちに対し、学校や行政が一体となって寄り添い、孤立させないための土壌を耕している最中だと言える。

磐田市においても学校に行きづらい子ども達に対し、学校や行政が一体となって寄り添い、孤立させないための取組を行っており、参考になる点が多くあった。また、長野県の「信州型フリースクール認証制度」は、フリースクールの財政支援等を行う制度として有効なものだと感じた。

Ⅲ 鎌倉市 人口：175,625人・面積：39.66km²（令和7年4月1日現在）

1 福祉分野における重層的支援について

(1) 概要

鎌倉市は、県の南部に位置し、相模湾に面する。12世紀後半に源頼朝が初の武家政権となる鎌倉幕府を開いた地で、その後150年間は政治・軍事・文化の中心となった。明治期に横須賀線が開通後、温暖な気候と景観の良さから別荘地となり、現在は観光地、住宅地としても人気が高い。日本のナショナルトラスト発祥の地で、歴史的遺産と共生するまちづくりを進める。

鎌倉市の重層的支援体制では、社会福祉協議会が運営する「Libero かまくら」が、今まで各関係機関がそれぞれ支援方針を協議し進めてきた輪に加わり、関係機関等がよりスムーズに連携できるように取り組んでいる。

(2) 考察

鎌倉市の重層的支援体制は「相談支援」「参加支援」「地域づくりへの支援」の三つの柱からできている。

①「相談支援」では、生活困窮や介護、子育て、障がいなど、分野を横断した相談に応じられるように体制を整えている。そして、課題の把握、役割の整理といった事例全体の調整を行う「多機関協働事業」と、複雑化・複合化した課題を抱えているが、支援が届いていない人に「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を行っている。

②「参加支援」では、孤立や生きづらさを感じる人が地域の中で役割をもち、社会とつながることを支援している。そして、市民同士の支え合いを育てる取組が進められていて、誰もが参加できる地域活動を可視化し、孤立の防止とともに、地域のつながりを再生する基盤を整えている。

③「地域づくりに関する支援」では、世代や属性を超えて地域の課題を住民自身が話し合い、解決していく「協働の仕組み」を強化している。地域にある小さな活動団体（自治体と限らない）が地域づくりの大きな力になっている。

以上のことから、「人と人のつながりそのものがセーフティネット」と捉えていることに強く共感し、磐田市でも問題が大きくなる前に、支援が必要になりそうな人を地域の中で見つけていく取組が重要であり、市民活動団体と協力し、多方面から孤独・孤立にさせない仕組み・地域づくりに取り組んでいく必要がある。